



捕獲員(左から)  
中川 清さん 椎名 宏さん  
大木正明さん 大木義夫さん



定置網での捕獲にも熱がはいる

# 旅立ちと一生

千葉県は、太平洋側では、サケが帰ってくる一番南の県です。昔は、「サケは、銚子限り」と言っていて、利根川から南には帰ってこないと言われていました。しかし、稚魚の放流の効果があって昭和55年から千葉県にもサケが帰ってくるようになりました。

栗山川に放流したサケの稚魚は1〜2日間で海へ下り、河口付近の海で約1ヶ月、プランクトンや小魚を食べ、体力をつけてから北へ向かって旅立ちます。サケは親になるまで、北太

平洋のアリユーション海域からベーリング海域にかけて、1万km以上も泳ぎます。その間には、トド・アザシ・鳥などにねらわれます。ですから3〜4年後に、太陽の位置や川のおいを手がかりに栗山川に戻って来るのは、1、000尾のうち1尾ぐらいになってしまいます。

川へのぼったサケは、わき水のあるような川底に、くぼみを作ってそこへ卵を産みますが、栗山川にはそのような場所がないのでサケを捕まえて、人工的に「ふ化」させて放流しています。

## サケとともに14年

捕獲員 椎名 宏(関)

「元気で帰ってこいよ。」と、3月末になるとサケの稚魚を小学生といっしょに放流を続け、親魚になって帰ってくるのを楽しみにしています。

今年も、いよいよ栗山川にサケが帰ってくる季節を迎えましたが、今年もふ化場と飼育槽が設置され、準備は万全に整いました。この施設で、たくさんの稚魚を生産し、来春には自前の稚魚を放流したいと思っています。



3〜4年後  
沿岸に帰ってくる(9〜12月)

